

(様式第9号)

平成22年2月15日

岩手県立大学学長様

学部等名 共通教育センター
職・氏名 准教授・藤井義久

平成22年度学部等研究費(学部プロジェクト研究費)交付申請書【継続】
学部プロジェクト研究費の交付を受けたいので、公立大学法人岩手県立大学学術研究費交付規程第4条の規定により、交付を申請します。

研究課題名

本学における望ましい教職課程カリキュラムの在り方に関する研究

※記載注意 研究課題が複数ある場合は、研究課題名を全て記載してください。

研究計画書（継続）

注：研究課題が複数の場合、表紙は1枚でも、ここからのページはそれぞれの課題毎に作成のこと。

研究課題	本学における望ましい教職課程カリキュラムの在り方に関する研究
研究期間	20年度 ～ 22年度（3年間） ※ 22年度 3年目
研究の目的 <p>本研究においては、国内他大学はもとより諸外国の優れた教職課程カリキュラムの調査、分析を通して、新設科目導入に伴う教職課程カリキュラムの内容や課題、問題点、さらには<u>6年制教員養成制度の問題点</u>も含めて検証し、地域や本学の現状をふまえた望ましい教職課程カリキュラムの在り方を検討することが本研究の主たる目的である。そして、平成22年度は、それに加えて、<u>政権交代によって突如登場した「6年制教員養成制度」の実現可能性に関する文科省調査に本学としても迅速に対応していかなければならない事態になったため、すでに諸外国において行われている6年制教員養成制度の現状と課題について文献調査によって明らかにするとともに、6年制教員養成制度の効果と弊害について、本学学生及び教職担当教員、さらには岩手県内の教職員に対するインタビュー調査や質問紙調査に基づいて検討し、急遽、調査報告書をまとめることにした。</u></p>	
研究の計画 <p>①研究の進捗状況</p> <p>平成20年度においては、国内および諸外国の優れた教職課程カリキュラムの基礎的調査および検討をおこなった。また平成21年度は、平成20年度に引き続いて現地調査を行うとともに、本学においても新しく導入される、演習、実習を重視した教職実践演習のシラバス案を作成し、教育実習Ⅰの中でその教育実践演習シラバス案の一部試行を行い、学生に及ぼす効果の高さを時系列調査によって確認したところである。</p> <p>② 22年度以降の研究計画</p> <p>(1) 文献調査及び資料収集</p> <p><u>すでに6年制教員養成制度を取り入れている北欧フィンランドを初めとする諸外国の教員養成制度の現状と課題について主として文献や資料に基づき分析する。</u></p> <p>(2) 現職教員に対する6年制教員養成制度に対する調査</p> <p><u>もし我が国において6年制教員養成制度を導入した場合、どういった効果が生じるか、また逆にどういった弊害が生じるか、制度導入に当たって困難なことは何か、さらには現在の大学における教員養成の在り方について現職教員はどのように見ているかなどについて明らかにするために、インタビュー調査及び質問紙調査を実施する。</u></p> <p>(3) 教職実践演習の試行</p> <p>昨年度に引き続き「教職実践演習」の効果的授業内容について検討するために、「教育実習Ⅰ」の中で「教職実践演習」の試行を行い、効果検証を行うとともに、授業内容の改善を図る。</p> <p>以上の研究結果に基づき、本学における望ましい教員養成制度の在り方について明らかにしたいと考えている。</p>	

経費内訳書

科 目	支出予定額	支出予定額の内訳
	円	
謝 金	67,200	データ入力 @6720 円/日×2 人×5 日
旅 費		
(国内)	450,000	国内：東京 45000 円 (1 泊 2 日) ×1 人×10 回
(海外)	0	
研究用資器材		
(消耗品購入)	27,800	文房具一式 12800 円、コピー用紙 (A3 5 束) 15000 円
(備品購入)	70,000	多変量解析ソフト (エスミ) 50000 円、IC レコーダー 20000 円
図 書	60,000	研究用図書 3000 円×20 冊
印 刷 費	20,000	文献・資料複写 10 円×2000 枚
通 信 連 絡 費	35,000	アンケート送付用切手、通信葉書、宅急便代
使用料、賃借料	40,000	会議会場使用料 20000 円×2 回
委 託 料	0	
負 担 金	0	
そ の 他	80,000	英文翻訳料 30000 円、学会投稿料 20000 円、 学会参加発表費 10000 円×3 回
合 計	850,000	

記載注意 本年度分について、記載すること。

研究体制概況書

所属機関・部局・職	氏 名	役割分担	備 考
共通教育センター 准教授	藤井義久	研究全般	